

欧州 5 大リーグの首都クラブに関する研究と東京都をホームタウンとする J クラブへの提言

Research on the metropolitan club of the Europe 5 Major Leagues and the proposal to J club which makes Tokyo a hometown

1K09B009 池田 陸人

指導教員 主査 平田竹男 先生 副査 中村好男 先生

【背景】

今年 20 周年を迎えた J リーグは、クラブのホームタウンでのスポーツ振興等の活動を重要視している。

クラブが成功を収めるために、ホームタウンはトリプルミッション（平田・中村 2006）の 3 分野（勝利・普及・資金）に人口や経済基盤の面において良い影響を与えることができるため、ヒト・モノ・カネの集まる「首都」をホームタウンとすることはクラブにとって良い影響を与えるのではないかと考えるに至った。

先行研究においてもサイモン・クーパーとステファン・シマンスキーは著書の中で欧州サッカーの歴史における首都クラブの活躍と今後の首都クラブが秘めている可能性を記している。しかし、日本の首都東京は、東京をホームタウンとする東京ヴェルディと FC 東京の 2 クラブが成功を収めているとはいえない現状で、首都の利を生かせていないように思われる。

【目的】

欧州の首都クラブについて研究し、首都がホームタウンであることがサッカークラブの運営に与える影響を考える。そして、東京が首都であることを生かし、サッカー文化を発展させることができるよう、欧州の首都クラブの事例を参考にして、2 クラブに施策を提言することを、本研究の目的とする。

【手法】

欧州全体の中で首都クラブがどのような結果を残しているかを見ていく。資金と勝利の面で調べを進めるが、データは UEFA クラブランキングと Deloitte 社の Football money league を使用する。これらのデータを使用し、欧州に多く存在するサッカークラブの中で、各国の首都クラブはどのような位置にいるのかを検証していく。

また、欧州 5 大リーグから首都クラブを各 1 クラブ選び、計 5 クラブ[アーセナル、レアル・マドリッド、ヘルタ・ベルリン、AS ローマ、パリ・サンジェルマン]を今回の研究対象クラブとし、トリプルミッションの概念を用いて研究し、リーグの平均以上に位置していることを基準に、成功を収めているかどうかを分析する。

【結果】

欧州の中の首都クラブに関しては、欧州 5 大リーグの中で首都クラブは 12%、所属クラブのある都市の中で首都

は 6%であるが、UEFA と Deloitte 社のデータを分析した結果、このような少ない割合にある中で、首都クラブは複数のクラブがランキングの上位に位置している。以上のように、資金や勝利の面で成功しているクラブが多いという結果となった。

各首都クラブに関しては、トリプルミッションの全ての面において成功を収めているクラブが 5 クラブ中 4 クラブであった。残りのヘルタ・ベルリンは勝利と資金の面ではリーグ下位にあったものの、普及においてはリーグ平均を上回っており、成功を収めていると言える結果であった。

【考察】

各首都クラブの分析から、首都はサッカークラブを運営する上で良い影響を与えることができ、大きな可能性を秘めていることがわかった。その為、背景において触れた東京をホームタウンとする 2 クラブも、より大きな結果を残すことの出来る環境にあり、可能性を秘めているといえる。

東京都の人口は多いが、2 クラブが活動している地域は人口が少なく、東京都居住サポーターのシェアを獲得できていない一つの要因ではないかと思われる。その為、人口の多い都市部にあるサッカー場で試合などの活動を定期的に行うことで、都市部のサポーターを獲得することが、首都クラブの利を生かした、普及活動ではないかと思い、この考えを東京ヴェルディと FC 東京の 2 クラブに提言したい。

【結論】

先行研究や欧州 5 大リーグの首都クラブの研究から、首都はサッカークラブを運営する上でとても良い環境であることがわかった。

その為日本の首都である東京も、サッカークラブの運営において大いなる可能性を持った都市である。しかし、現状では東京都をホームタウンとする東京ヴェルディと FC 東京はその利を生かせていない。今後、東京都をホームタウンとしている利を生かし、この 2 クラブが日本を代表するビッグクラブへと成長するために、より人口の多い都市部での活動を増やし、普及活動に力を入れることを提言する。